おたからさがし

今治さくらいの物語
桜井三十三ヵ所観音巡り

桜井の人々は古くから地蔵を祀り、信仰してきた。そのうちの一つに西国三十三ヶ所にちなんだ「桜井西国三十三カ所観音霊場巡り」がある。「桜井西国三十三カ所観音霊場」の観音地蔵は、江戸時代の嘉永年間（1848～1854）に西国巡りができない人のために、喜右ヱ門と宮蔵が中心となり桜井有志が寄進したものと伝わる。その後、大正時代に旧櫻井町を一巡できるように設置され、庶民信仰として広まった。地蔵ひとつひとつの縁起やご利益が異なっており、個々の佇まいは私たちに様々な表情を見せてくれる。中には『三界萬霊』と彫られ、すべての精霊を供養する大切さを諭す地蔵も見られる。昔の人々はこれらの地蔵にお参りすることで「お産が楽になる」、「夜泣きがおさまる」などと言い、深い信仰心を寄せてきた。現在でも日々お参りする人々に出会う。手作りの前かけを着せ、花や水が供えられた地蔵からは、桜井の人々が地蔵を大切に思う心が伝わる。各所に見られる地蔵は桜井の暮らしを見守るように静かに佇んでいる。

桜井地区地域水産業再生委員会×愛媛大学井口梓研究室